

キズ・キズあとに対する形成外科手技を応用した小児先天性疾患の治療

清水 雄介

琉球大学大学院医学研究科 形成外科学講座

形成外科は先天的、後天的なハンディキャップを機能面、整容面で改善することを目的としています。日本では1950年代から登場した比較的新しい科ですが、対象とする疾患は幅広く、現在では基本診療科として患者さんの治療に欠かせない役割を担っています。形成外科は再建外科、外傷、先天性疾患、美容外科の4つの柱で構成されます。本講演では形成外科が得意とする「キズ・キズあと」に対する治療手技と、それを応用した様々な「小児先天性疾患」に対する治療を御紹介致します。